

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」個別事業の評価一覧

事業の評価										予 算	担当課										
■ 施策(9) 青少年の健全育成										予算・3次											
実施年度	事業番号	事業名	事業概要	【Plan】計画		【Do】実施					【Check】評価		【Action】改善		予算事業名	3次プラン 取り組み No.	※赤字が評 価を記載した 課				
				令和元年度の 事業計画	令和元年度の実績	活動指標	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	評価	5ヵ年 評価の理由 (分析)				次年度 達成 率 達成 率 達成 率	課題や改善内容		
1	181	青少年体験活動活性化事業	青少年育成事業情報を発信し、体験活動の場を紹介するとともに、青年リーダーの養成などを通して、さらなる青少年の健全育成環境づくりを進める。	①体験情報冊子「キッズチャレンジ」の発行 ②青少年育成シニアリーダー会議「ぼんて」の開催	①市内の全小学生に対して、6月、12月の2回配布 ②11回開催	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数 [現状値] 6,342人 (H25年度) [目標] 増加	前年度 (5,279人) 比増	前年度 (5,415人) 比増	前年度 (5,734人) 比増	前年度 (5,415人) 比増	前年度 (5,734人) 比増	前年度 (5,415人) 比増	前年度 (5,734人) 比増	前年度 (5,415人) 比増	達成	・ボランティア活動を通じて、豊富な体験活動プログラムや活動の支援ができ、体験活動者数も増加したため「達成」とした。	・青少年育成団体やNPO団体、地域の拠点施設である市民センター等との一層の連携により、青少年の体験活動の機会や場を作り出していく必要がある。	青少年体験活動等活性化事業	65	子家・ 青少年課	
1	182	青少年の家の運営	施設周辺の豊かな自然の中で、野外活動や集団生活などの体験を通して、規律、協同、友愛、奉仕の精神を学び、心身ともにたくましい青少年の育成を図る。また、身近でより安全かつ快適に利用できるように、青少年施設の環境整備を行う。	①学校受入事業の実施、施設を活用した主催事業の実施 ②青少年の家の継続的な利用に、計画的な補修工事等の実施	①施設利用者152,769人 (H30:189,018人) ②施設的环境整備や安全を確保するため、外壁の危険箇所撤去工事、消防設備の不良箇所取替工事等を実施した。	青少年の家の利用者数 [現状値] 195,775人 (H26年度) [目標] 前年度比増	前年度 (195,775人) 比増	前年度 (205,913人) 比増	前年度 (198,769人) 比増	前年度 (198,994人) 比増	前年度 (189,018人) 比増	前年度 (152,769人) 比増	前年度 (195,775人) 比増	前年度 (195,775人) 比増	概ね達成	・少子化による児童・生徒が減少する中で、大規模改修工事のため一時休館していた令和元年度を除き、他の年度は概ね現状維持を保てており、計画的な環境整備が施されたことから評価を「概ね達成」とした。	・少子化による児童・生徒が減少する中で、市外からの利用者の獲得など、創意工夫しながら利用者数増を目指す。 ・各施設とも老朽化が進んでいるため、北九州市公共施設マネジメント実行計画に沿って施設の集約を進めていく中で、適切に更新や補修を行っている。	青少年施設運営管理運営費(指定管理) 青少年施設管理運営費 青少年施設管理運営費(公共施設)	66	子家・ 青少年課	
1	183	児童文化科学館の運営	プラネタリウム、科学教室などの体験を通じた科学事業、演劇会などの文化事業を開催し、科学教育の振興、児童文化の向上を図る。	①プラネタリウム、科学教室などの科学事業、演劇会などの文化事業を開催する。	①施設利用者86,847人	利用者数 [現状値] 98,364人 (H26年度) [目標] 前年度比増	前年度 (98,364人) 比増	前年度 (100,840人) 比増	前年度 (100,817人) 比増	前年度 (101,432人) 比増	前年度 (94,263人) 比増	前年度 (86,847人) 比増	前年度 (98,364人) 比増	前年度 (98,364人) 比増	概ね達成	【課題】 ・すでに開設から60年経つため、建物および展示物など老朽化が激しい。 【改善】 ・近年の台風被害や新型コロナウイルス等の影響があるなかで、計画目標達成率は9割近くを推移しているため、「概ね達成」とした。	【課題】 ・現在、新科学館の建設計画が進んでおり、その状況を見ながら本館の運営を行っている。 その間にサイエンスショーや科学実験など、大学・企業などと連携し、多様な事業を実施していくことで、現施設の魅力を向上させ、新科学館へ引き継いでいく。	・児童文化施設管理運営費 ・児童文化施設管理運営費(公共)		子家・ 青少年課	
1	184	青少年施設のあり方の検討	行財政改革大綱の公共施設マネジメント方針に沿い、児童文化科学館を含む青少年施設のあり方の検討を進めている。	①分野別行動計画に基づいた実行。 ②新科学館のソフト、ハード面ともに検討を進める。	①関係機関との協議を実施中。 ②スペースワールド跡地(イオンモール新施設敷地内)への移転が決定し、基本設計が終了した。	- [現状値] - [目標] -	-	-	-	-	-	-	-	-	達成	・分野別行動計画に基づいて、関係機関と協議ができている。 ・基本計画、基本設計に着手し、検討を進めることができたため、「達成」とした。	【課題】 ・公共施設マネジメント5ヵ年行動計画について、対外交渉が必要な部分もあり、計画どおりすすまない可能性もあることが懸念される。 【改善】 ・対外交渉に必要な情報収集を行い、今後の行動計画の進捗に生かしていく。	・新科学館整備事業 ・北九州市地方創生拠点整備基金積立金	75	子家・ 青少年課	
1	185	児童館の運営	児童に健全な遊びを与えることで、健康を増進し、情操を豊かにすることを目的に運営するとともに、母親クラブ等の地域活動の育成助長を行う。	①児童館の運営	①児童館利用者数:637,106人	児童館の利用者数 [現状値] 651,601人 (H26年度) [目標] 増加	前年度 比増	前年度 比増	前年度 比増	前年度 比増	前年度 比増	前年度 比増	前年度 比増	前年度 比増	前年度 比増	概ね達成	・指定管理事業者により安定的な運営がなされた。 ・利用者数は目標を下回ったが、これは、計画期間中に2館を休館したこと(令和元年度は新型コロナウイルス感染症対策のため約1か月休館)等に起因するものであると考えられるため「概ね達成」とした。	・中高生向けのプログラムへの取り組みを促進し、中高生の利用の増加を図る。 ・9館で実施している親子ふれあいルームの周知を図り、乳幼児の利用の増加を図る。	児童館運営費 児童館の管理運営	56	子家・ 子育て支援課

事業の価値										予算		担当課					
■ 施策(9) 青少年の健全育成										予算・3次		※赤字が評価を記載した課					
【Plan】計画				【Do】実施					【Check】評価		【Action】改善		予算事業名	3次プラン No.			
担当課	事業名	事業概要	令和元年度の事業計画	令和元年度の実績	活動指標	5ヵ年					評価	5ヵ年 評価の理由 (分析)	達成 率 達成 率	課題や改善内容	予算	3次プラン No.	
担当課	事業名	事業概要	令和元年度の事業計画	令和元年度の実績	活動指標	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	評価	5ヵ年 評価の理由 (分析)	達成 率 達成 率	課題や改善内容	予算	3次プラン No.
1186	青少年ボランティアステーション推進事業	青少年の成長に欠かすことができない様々な体験活動等を通じ、青少年が社会構成員として、規範意識や社会性、協調性を身に付けることができるよう、青少年ボランティアステーションを拠点に、青少年のボランティア体験活動を支援、促進する。 また、ひきこもりや非行等の問題を抱える少年の社会的自立を支援するため、社会参加ボランティアプログラムを実施する。	①ボランティア体験活動の提供 ②ボランティア出前授業の開催	①青少年ボランティアに対して実施したプログラム353事業 ②参加児童・生徒数730人	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数 【現状値】 6,342人 (H25年度) 【目標】 増加	前年度(5,279人)比増 5,415人 達成率 103%	前年度比増 5,734人 106%	前年度比増 5,387人 94%	前年度比増 7,116人 132%	前年度比増 6,943人 97%	達成 109%	達成 85%	・近年青少年のボランティア活動への関心が高まっている。それに対応できるように、環境美化系、スポーツ系、イベント系と様々なボランティア活動の場を開拓していった。北九州市を元気にする活動の発信とボランティア活動を結び付けて、紙媒体だけでなくHPやメールなどを活用し募集したところ、参加者も増加し十分達成したと評価できる。	・ボランティア活動を通じた豊富な体験活動プログラムの提供と活動支援を進めていく。 ・YELLや若者サポートステーション等との連携を深め、社会的引きこもりの青少年に対して自己達成感を得られるようなボランティア活動を進めていく。 ・SDG'sと結びつようなボランティア活動を現在実施している海岸清掃、竹林保全以外に開拓する。	青少年ボランティアステーション推進事業	68	子家・青少年課
1187	野外教育等推進事業	夜宮青少年センターでのキャンプ、野外調理などを通じて、「生きる力」を育むプログラムを実施する。また、同センターを拠点に中高生生の居場所づくりや、ボランティアの養成などにも取り組む。	①夜宮中高生クラブの開催	①86回開催	夜宮中高生クラブの参加者数 【現状値】 1,290人 (H26年度) 【目標】 増加	前年度比同水準 1,290人 達成率 119%	前年度比同水準 1,531人 82%	前年度比同水準 1,250人 146%	前年度比同水準 1,790人 98%	前年度比同水準 2,357人 131%	達成 119%	達成 97%	・中高生クラブの参加者は増加傾向にあり、中高生の居場所としての機能は果たしていることから「達成」と判断した。	・子どもたちの自然体験や生活体験の機会や場を増やしていく必要がある。	青少年体験活動等活性化事業		子家・青少年課
1188	家庭・地域・学校の連携推進	地域ぐるみで子どもを見守る「あいさつ運動」や、子どもの生きる力を育み、心豊かにたくましい子どもを育てるため、体験活動の機会の充実など、地域や家庭と学校が一体となった取組みを推進する。	①家庭や地域と連携したあいさつ運動の展開 ②市民センターでの子ども交流事業や体験活動事業への参加者数	①小・中学校の全校で実施 ②55,370人	市民センターでの子ども交流事業や体験活動への参加者 【現状値】 59,775人 (H29年度) 【目標】 70,000人 (H30年度)	67000 56238 達成率 83.9%	68000 54657 80.4%	69000 55,126人 79.9%	69000 56,563人 82.0%	69,000人 55,370人 80.2%	80.0%	80.0%	・市内の児童数が減少する中で、過去5年間はほぼ安定した実績数値を達成し続けているため「概ね達成」と評価した。	【課題】 ・地域課題解決や地域交流を目指す講座を増やす必要がある。 【改善】 ・今後、地域の実情を反映し、地域課題の解決につながる講座を実施するため、市民センター館長研修の充実を図り、生涯学習を通じて地域活動に参画する人材の育成を図る。	生涯学習活動促進事業 (市分、生涯学習課) 家庭・地域・学校ハートナッシュ事業 (教育・指導第二課)	172	市文・生涯学習課 教育・指導第二課
1189	チャレンジ100キロ～歩け北九州っ子若武者の旅～	心身ともにたくましい子どもたちの育成を目的として、80名の子どもたちが、市内の青少年施設に連泊しながら、市内の山々など100キロの行程を踏破する。	安全に楽しく実施するために、 ①事前踏査の実施 ②参加者・ボランティアへの事前研修会の実施	①チャレンジスタンプにて全行程を事前踏査した(木の伐採等関係部署に依頼)。 ②3回開催	参加者数 【現状値】 80人 (H26年度) 【目標】 現状維持	80人 80人 達成率 100%	前年度比同水準 80人 100%	前年度比同水準 80人 100%	前年度比同水準 80人 100%	中止 100%	達成 100%	達成 100%	効果的な広報、PRにより、毎年80人の応募に対し、100～150人の応募を受けるなど市民に人気の事業となっている。また、大きな事故もなく、事業終了時のアンケートを見ても、極めて満足度が高い。 以上により、「達成」とした。	・活動プログラムの充実と実施体制のさらなる効率化を図る。	青少年体験活動等活性化事業	69	子家・青少年課
1190	夏休み！子どもバスぼ～と	子どもの社会参加、自立、自主性の育成に貢献するとともに、子育てに対する保護者の経済的負担や送迎の負担を軽減するため、夏休み期間中に小・中学生向けに、1日乗車券の料金(小学生350円、中学生700円)で、7日間市営バスの全路線乗り放題の乗車券を発売する。	①「夏休み！子どもバスぼ～と」を販売する。	①発売件数:311件 (内訳) ・小学生:193件 ・中学生:118件	発売件数 【現状値】 397件 (H26年度) 【目標】 毎年1000件	1,000件 424件 達成率 42%	1,000件 387件 39%	1,000件 316件 32%	1,000件 431件 43%	1,000件 311件 31%	達成 42%	達成 39%	・平成30年度から若松区内の小・中学校の全児童生徒にPRチラシを配布するなど、利用促進の強化・改善に努めたものの毎年1,000件の利用には至らなかった。	【改善】 利用者により活用してもらうため、積極的にPRを行う。	予算なし		交通・総務経営課

事業の評価値											予算		担当課			
■ 施策(9) 青少年の健全育成											予算・3次		※赤字が評価を記載した課			
【Plan】計画				【Do】実施					【Check】評価		【Action】改善		予算事業名	3次プランNo.		
指図書番号	事業名	事業概要	令和元年度の事業計画	令和元年度の実績	活動指標	5ヵ年					評価	5ヵ年 評価の理由 (分析)	課題や改善内容	予算	3次プランNo.	
						区分	27年度	28年度	29年度	30年度						令和元年度
1	191	児童健全育成ボランティア推進事業	児童館における児童健全育成活動や子育て支援活動をより充実し、地域全体に広げていくために、児童館を拠点として活動しているボランティア組織「みらい子育てネット(母親クラブ)」の活動を支援し、その充実を図る。	①みらい子育てネット(母親クラブ)への活動支援数:14クラブ	支援クラブ数 15クラブ (H25年度) 現状維持	現状値比増 15クラブ	前年度比同水準 15クラブ	前年度比同水準 14クラブ	前年度比同水準 14クラブ	前年度比同水準 14クラブ	概ね達成	・「みらい子育て支援ネット(母親クラブ)」の支援を通じて地域の子育て活動を推進し、また活動クラブ支援数は概ね現状維持できていることから、「概ね達成」とした。	・地域の子育て支援活動の充実を図るために、市の直接実施でなく、地域の民間団体に支援することで、効率性が高い活動を行う。	児童健全育成ボランティア(みらい子育てネット)推進事業		子家・子育て支援課
1	192	子ども会等地域活動推進事業	地域における子どもの活動を活性化させるため、地域で子どもたちが活動し成長する環境づくりや、そのような活動に携わる市民への支援を行う。	①遊びの達人派遣 ②「遊びのススメ」出前講演の開催	遊びの達人派遣事業参加者数 3,261人 (H26年度) 現状維持	前年度(3,261人)比同水準 4,922人	前年度比同水準 5,979人	前年度比同水準 6,202	前年度比同水準 5,081人	前年度比同水準 3,113人	概ね達成	・市民センターや子ども会等が連携し、遊びの達人の派遣事業が円滑に実施され、参加人数計画の95%であることから、「概ね達成」とした。	・遊びの達人の派遣を中心に、市民センターや子ども会等ともしっかりと連携しながら、事業を実施していく必要がある。 ・事業の周知PRを効果的に実施する必要がある。	子ども会等地域活動推進事業		子家・青少年課
1	193	遊びの広場促進事業	子ども会をはじめとした青少年育成団体などの活動の活性化を図るため、他の団体・グループ活動の参考になる事業に対し支援を行う。	①遊びの広場促進事業補助金事前説明会の実施 ②遊びの広場促進事業補助金の交付	交付団体 10団体 (H26年度) 現状維持	前年度(10団体)比同水準 12団体	前年度比同水準 9団体	前年度比同水準 7団体	前年度比同水準 7団体	前年度比同水準 7団体	概ね達成	・助成金交付団体は計画の70%にとどまっているが、多様な青少年育成活動を行う団体に適切に助成し、事業が円滑に実施できていることから「概ね達成」とした。	・事業の周知PRや成功事例の報告を積極的に実施する必要がある。	遊びの広場促進事業	59	子家・青少年課
1	194	青少年団体の活動支援	青少年の健全育成や非行防止活動を推進するため、青少年団体の運営や活動を支援し、連携強化を図る。	①青少年団体育成補助金の助成 ②青少年育成団体連絡会議の開催(補助金の適正利用指導)	助成団体数 312団体 (H26年度) 現状維持	前年度(312団体)比同水準 299団体	前年度比同水準 283団体	前年度比同水準 278団体	前年度比同水準 272団体	前年度比同水準 254団体	概ね達成	・助成金を活用して青少年団体の運営や活動に支援を行ったことで、子どもの地域での活動が活性化できたことから「概ね達成」とした。	・青少年育成団体の会員数が減ってきており、団体活動のより一層の活性化が必要となっている。引き続き、市と各団体で組織する「青少年育成団体連絡会議」において、各団体の課題を共有しながら、活性化に向けた取組みについて検討を行っていく。	青少年育成団体補助金		子家・青少年課
1	195	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	総合型地域スポーツクラブは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブである。また、地域住民により自主・主体的に運営される総合型地域スポーツクラブは、多世代・多様目・多志向を特徴としており、地域スポーツの中核をなすものである。本市における成人の週1回のスポーツ実施率の向上のためにも、果たす役割は大きく、総合型地域スポーツクラブの活動活性化を促し、参加者の拡大を目指す。	クラブ間交流事業(連絡協議会で活動報告、スポーツファンタジアを開催)	クラブ会員数 2,320人 (H25年度) 4,000人 (R2年度) 現状維持	2,700	2,900	3,000	3,300	3,600	やや遅れ	計画期間中すべての年度において、策定時の計画目標には達していないが、各クラブの活動状況等を加味した上で「やや遅れ」とした。	【課題】 ・引き続きクラブの質を高め、指導者や運営に携わる人材育成に努めるとともに、クラブ間交流事業を実施するなど、会員増加につながる効果的な事業実施を検討する必要がある。	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業		市文・スポーツ振興課

事業の価値											予算		担当課													
■ 施策(9) 青少年の健全育成											予算・3次		※赤字が評価を記載した課													
【Plan】計画				【Do】実施					【Check】評価		【Action】改善		予算事業名	3次プラン No.												
担当課	事業番号	事業名	事業概要	令和元年度の事業計画	令和元年度の実績	活動指標				令和元年度	5か年 評価の理由 (分析)		達成 率	達成 率	課題や改善内容	予算事業名	3次プラン No.									
						区分	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度															
1	196	「わくわく体験」スポーツ教室	近年、テレビゲームなどの屋内道具の発展・普及により、青少年の運動不足が懸念されており、特に冬期には屋外での運動が減少する傾向にある。そこで、冬期のスポーツとしてのバランス感覚や柔軟性の向上に最適なアイススケート教室を実施し、青少年の健全育成と生涯スポーツの振興を図る。	①スケート教室、学校スケート教室の開催 ②効果的な広報活動を用い、スケート教室を実施する。 (H28年度、最終目標値を8,000人に上方修正)	①スケート教室を116回開催。学校教室は市内小学校21校参加 ②広報においては、小学生に配布する無料招待チケットをチラシから切り離して使用できるタイプで、チラシの紙面を利用して多くの情報を提供できるようにした。また、ホームページを作成し、より多くの方へ広報した。	参加人数 【現状値】 7,137人 (H26年度) 【目標】 毎年8,000人 (H28以降)	7500	7800	8000	8000	8000	やや遅れ	計画期間中、無料招待の対象校や対象小学生の人数が減少していかなく、様々な方法で広報を行い、より多くの参加者を募ることが出来た。しかし、計画目標を達していない年度があるため、「やや遅れ」とした。	より多くの子供たちに参加してもらえよう、引き続き広報活動を行っていく。	わくわく体験スポーツ教室											
1	197	ドリームスポーツ体験教室 (旧)プロスポーツチームによる夢感動プロジェクト	北九州市をホームタウン・準ホームタウンとする『キラヴァンツ北九州』、『堺プレイヤーズ』、『福岡ソフトバンクホークス』及び『ライジングゼファーオカ』の選手・コーチングスタッフ等による市内の小中学生を対象とするサッカー、バレーボール、野球、バスケ、ソフトボールの4種目体験教室を実施する。	① トップアスリートとの交流の場を提供。 ② 子どもたちがさまざまな種目を体験することによるスポーツの楽しさの場の提供。 ③ それぞれの種目のスキルアップを図る場の提供。 ④ さらに上を目指して努力するたくましい心豊かな青少年を育成。 ①～④を7月27日(金)に実施	①～④を実施 実施日時:8月12日(金)12:00～16:00 場所:北九州市立総合体育館 参加人数:152名	体験教室参加人数 【現状値】 116人 (H25年度) 【目標】 毎年150人	150	150	150	150	150	達成	5か年の平均参加者数が目標を達成しているため、「達成」とした。	より一層の広報等	ホームタウン推進事業											
1	198	新・夢・スポーツ振興事業 【H30年度より名称変更】 夢・スポーツ振興事業	トップアスリート等の活用により、オリンピック選手など国際、全国大会で活躍する、次世代を担うトップアスリートを育成するとともに、スポーツに対する意欲を醸成する。	①種目別強化事業(7種目)の実施 ②通年型派遣事業(3種目)の実施 (H28以降②を新たに実施するため、最終目標値を950人に上方修正)	①種目別強化事業(7種目)実施 ②通年型派遣事業(3種目)実施	①種目別強化事業参加者数②通年型派遣事業参加者数 【現状値】 210人 (平成26年度) 【目標】 950人 (平成30年度) H27までは目標値500人	300	700人 (①400 ②300)	950人 (①500 ②450)	950人 (①500 ②450)	950人 (①500 ②450)	達成	平成28年度以降、参加者が目標を大幅に達成できていたことから、「達成」とした。	【改善】 実施種目については、今後も各競技団体との協議の上検討し、実施する。	夢・スポーツ振興事業											
1	199	学校施設開放事業	地域スポーツの普及および児童の安全な遊び場の確保のため、学校教育に支障のない範囲で小・中学校の体育施設を市民に開放する。	①遊び場開放 ②スポーツ開放	①127校 ②184校	遊び場開放 【現状値】 128校 (H26年度) 【目標】 130校	130校	130校	130校	130校	130校	概ね達成	・目標に近い学校数で学校施設開放を行うことができたことから、「概ね達成」と評価した。	【課題】 学校周辺の住民から騒音等についての苦情があるため、利用者に対して、配慮を求めるよう周知が必要である。 【改善】 騒音問題や公正な利用に配慮しながら、学校教育活動に支障のない範囲で小中学校の運動場・体育館・武道場を市民に開放する。	・学校施設開放事業(指導部分) ・学校施設開放事業(施設課分)	55										
1	200	夏休み子ども文学館開催事業	文学館において、子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことを目的に、夏休み期間を利用して子どもを対象とした企画展・イベント、作品募集などを開催する。子どもたちに魅力のある企画展の開催と、PR活動の工夫を行い、利用者の増加を図る。	①関連イベント(講演会等)の開催を充実させる。 ②詩のコンクールの市外からの応募者増を図るために積極的な広報活動を行う。	①関連イベントの開催回数:3回 ②広報活動の実施	夏休み企画展入場者数 【現状値】 2,076人 (平成25年度) 【目標】 5,000人 (令和元年度)	5,000人	5,000人	5,000人	5,000人	5,000人	達成	・計画目標の達成率が100%を超えており、目標を達成している。	・展示リニューアルを終え、夏の企画展などを企画する。ただし、新型コロナウイルスの影響を踏まえ、開催内容等を慎重に判断する。 ・コンクールについては、チラシ配布のあり方について、効果的な広報を行ってきたい。	文学館普及研究員(の一部)											

事業の価値											予算		担当課				
■ 施策(9) 青少年の健全育成											予算・3次		※赤字が評価を記載した課				
【Plan】計画				【Do】実施					【Check】評価		【Action】改善						
担当課	事業名	事業概要	令和元年度の事業計画	令和元年度の主な実績	活動指標	5ヵ年					評価	5ヵ年 評価の理由 (分析)	達成 概ね達成 やや遅れ	課題や改善内容	予算 事務事業名	3次プラン 取り組み No.	担当課
担当課	事業名	事業概要	令和元年度の事業計画	令和元年度の主な実績	活動指標	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	評価	5ヵ年 評価の理由 (分析)	達成 概ね達成 やや遅れ	課題や改善内容	予算 事務事業名	3次プラン 取り組み No.	
1	201	学校等訪問コンサート	文化体験を通して、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手として育成するため、アーティストが直接学校に向いて生の音楽を提供する。	市内で活動する音楽家を放課後児童クラブへ派遣し、子どもたちに生演奏等を提供する訪問コンサートを実施する。 ※令和元年度より対象を学校から放課後児童クラブへ変更	アンケート満足度 96% (平成25年度) 現状維持 訪問数:22クラブ 参加者数:1,924人 アンケート満足度:100%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	概ね達成	学校現場の多忙化等により応募する学校が年々減少したため、対象を放課後児童クラブへシフトチェンジする等、効果的な事業実施を図った。計画期間中は目標値に及ばない状況ではあったが、最終年度には達成することができたため、「概ね達成」とした。	令和元年度から、放課後児童クラブへの訪問コンサート(数年前から実施)へシフトし、参加した全クラブから満足との回答をいただいた。今後も、子どもたちの芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手を育成していくために、より効果的な事業実施を図っていく。	優れた文化・芸術との“出会い”創造事業		市文・文化企画課	
1	202	子ども文化ふれあいフェスタ	日本舞踊やいけばななどの文化体験を通して、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手としていくために、8月下旬に文化団体等が企画したワークショップ等を実施し、芸術文化に対する関心を高める。	地元文化団体等が企画したワークショップ等を実施する。 参加者数:731人 アンケート満足度:94%	アンケート満足度 94% (平成25年度) 現状維持	94.0%	94.0%	94.0%	94.0%	94.0%	達成	計画の期間中目標値を達成しつつも、実際の伝統文化体験を通してその楽しさを実感してもらうことができ、芸術文化の担い手の育成に貢献していると認められるため、「達成」とした。 なお、平成30年度は実施を見送り、事業のあり方を検証した。現在、事業を継続中。	企画内容の充実等、引き続き事業の検証に努めながら、事業目的である未来の文化の担い手の育成に向けて取り組んでいく。	優れた文化・芸術との“出会い”創造事業	70	市文・文化企画課	
1	203	北九州市青少年少女合唱団・ジュニアオーケストラ育成事業	北九州市青少年少女合唱団、北九州市ジュニアオーケストラの活動に対する支援を行う。	①北九州市青少年少女合唱団では、地域の音楽文化を担う演奏家の育成と活躍の場を広げるため、定期演奏会やサマーコンサートの支援を実施。 ②北九州市ジュニアオーケストラでは、情緒豊かな青少年の育成及び市民文化の向上を図るため、定期演奏会やスプリングコンサートの支援を実施。 ①入場者数:511人 団員数:113人 ②入場者数:610人 団員数:84人	少年少女合唱団 団員数 110人 (平成26年度) 100人 (平成29年度) 北九州市ジュニアオーケストラ 団員数 91人 (平成26年度) 95人 (平成29年度)	100	100	100	100	100	達成	計画の期間中ほぼ目標値を達成するとともに、活動を通じて音楽文化の振興だけでなく子どもたちの情操教育にも大きく役立っていることから「達成」とした。	少子化により団員数の増加を見込むのは難しいと思われるが、活動に対する支援を続けることで、未来の文化の担い手の育成並びに文化・芸術を通じた青少年の健全育成を図っていく。	芸術文化振興財団委託事業		市文・文化企画課	
1	204	ジュニアマイスター養成講座	科学体験やものづくり体験を通して「科学がすき、ものづくりがすき」な子どもたちの育成を図るため、小・中学生を対象とした各種科学教室を開催する。	①ジュニアマイスター養成講座の実施 ①「たのしい科学工作教室」「未来の科学者教室」などの講座を実施	科学実験・科学工作等の参加者数 8,712人 (H26年度) 10,000人 (令和元年度)	前年度 (8,712人) 比増 8,583人	前年度 (8,583人) 比増 8,084人	前年度比 増 9,629人	前年度比 増 8,799人	前年度比 増 8,863人	概ね達成	計画目標の達成は、年度により増減はあるが、順調に伸びている。平成元年度は達成率が89%となっており、「概ね達成」と判断した。	限られた予算の中で、魅力ある講座を企画・実施していかなければならない。また、企業や大学など外部のノウハウを持った団体とも連携ネットワークを広げており、子どもたちに興味を持ってもらえる楽しい講座を効率的に企画・実施していく。	児童文化施設各種事業		子家・青少年課	

事業の評価										予算	担当課							
■ 施策(9) 青少年の健全育成										予算・3次 事務事業名	3次プラン 取り組み No.	※赤字が評 価を記載した 課						
【Plan】計画				【Do】実施				【Check】評価					【Action】改善					
担当 部署	事業 番号	事業名	事業概要	令和元年度の 事業計画	令和元年度の実績	活動指標				評価	5年 評価の理由 (分析)	達成 率 概ね達成 や否や	課題や改善内容					
					区分	27年度	28年度	29年度	30年度					令和元年度				
1	205	こども文化バ スポート事業	地域の文化・歴史・自然に接することにより、豊かな心を育むとともに親子のふれあう機会を増やすことを目的として、夏休み期間を中心に、文化施設をはじめと してさまざまな施設に無料(一部割引)で入 場できるバスポートを子どもたちに配布す る。	①夏休み期間中 を中心に、文化施設をはじめとする様 々な施設に無料(一部割引)で入場できる バスポートを子どもたちに配布する。本 市、下関市、長門市、北九州都市圏 広域行政推進協議会(中間市、遠賀4町) による共同事業として実施する。	①利用者数64,316人 ・参加施設の意見(アンケート調査) 参加施設の約7割が概ね満足している と回答	利用者数 【現状値】 100,636人 【目標】 55,994人 (H26年度)	100,636人	99,524人	98,724人	101,432人	バスポート配 布者数の7割	概ね達成	・目標値には達していないものの、北九州市をはじめ近隣地域の子どもたちが地域の文化や歴史になどに触れ、豊かな心を育むきっかけづくりに なっている。 ・バスポート内での企画を工夫し、負担の少ない形で参加施設の来訪者増加に寄与できており、参加施設が増加し続けながらも、7割程度の施設が事業に満足しているとのアンケート評価を得ている。 ・以上のことから「概ね達成」とした。	より多くの子どもたちが多くの施設を巡るきっかけとなるよう、魅力的な仕組みづくりを検討する。 また、参加施設を更に増加させるなど、より多くの文化や歴史に触れる機会となる事業づくりを進める。	こども文化バスポート事業	71	教育・企画調整課	
1	206	ワークショップ 及びアウト リーチ事業、 学校との連携 旧:わくわく アートミュージ アム事業	子どもたちの感動する心や豊かな情操を養うため、美術館を積極的に活用し、美術に親しむ態度を育てる。また、美術館の重要な役割の一つとしての教育・普及活動のうち、学校の美術教育活動を支援する。	①美術鑑賞事業の実施 ②子ども向けワークショップ及びアウトリーチ事業開催	① 122回 8,254人 ② 15回 357人	美術鑑賞事業実施回数 【現状値】 40回 【目標】 18回 (H25年度) 年間40回	40回	40回	40回	40回	131回	概ね達成	・美術鑑賞事業は、当初は目標の半分以下となるなど、遅れが生じていたが、途中で対象を市内の全小小学3年生に変更するなどの変更をした結果、9割を超える結果を得られている。 ・またワークショップ及びアウトリーチ事業についても当初は目標を下回っていたが、現在では目標を大きく上回る結果を出しており、大変順調である。 ・これらの推移と結果を踏まえ、事業全体としてはおおむね達成と評価した。	・次年度以降も市内の全小小学の3年生を対象に美術鑑賞事業(ミュージアム・ツアー)を実施する。 ・子ども向けワークショップ及びアウトリーチ事業を継続して実施する。	美術館教育普及事業の一部 美術鑑賞事業ミュージアムツアー		市文・美術館普及課	
1	207	博物館セカ ンドスクール事 業	博物館を第2の学校(教育の場)として位置づけ、ミュージアムティーチャー(博物館勤務の教員)を配置し、体験学習の実施や学習プログラムの作成等に取り組み、理科・社会科への学習の意欲向上に資することにより博学連携を推進する。特に、「博物館への誘致事業」、「学校教育支援事業」、「家庭教育支援事業」の3つの柱をかがり、学校教育現場と博物館の結びつきを強める。	①修学旅行、社会見学、総合的な学習の時間としての博物館利用の促進を図るため、来館状況の分析に基づく誘致活動を行う。特に、来館実績の変動が見込まれる地域と市内学校団体へのPR活動の強化を図る。	①学校団体誘致数 947団体	学校団体誘致数 【現状値】 1,000団体 【目標】 1,263団体 (H26年度)	1,000団体	1,000団体	1,000団体	1,000団体	1,000団体	947団体	達成	・1力年から3力年までは、修学旅行団体を中心に目標を大きく上回る結果となった。4力年以降は、近接していた大規模施設開設の閉園に伴い来館者数の減少が予測されたため、修学旅行団体への誘致活動を強化した。その結果、団体入館者数の減少を最小限にとどめることができた。最終年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、若干目標に届かなかったが、計画期間中を平均すると目標に達成しているため「達成」とした。	【課題】 ・修学旅行団体の減少がやや見られるので、更なる学校団体の誘致が課題である。 【改善】 ・修学旅行及び社会見学における博物館利用の促進を図るための誘致活動の強化を図る。 ・博物館が第2の学校として、理科・社会科・総合的な学習の時間への学習意欲をもたせるために、学校教育支援を推進する。	博物館セカンドスクール事業	73	市文・自然史・歴史博物館普及課
1	208	外遊び(プレイ パーク)の検討 【H27~】	子どもの健全育成を図るため、自然とふれあい、さまざまな外遊びができる機会を提供することが重要であるとの観点から、自然の地形や樹木を利用し、「子どもたちが自分の責任で自由に遊ぶ場」であるプレイパーク(冒険遊び場)について、先立事例調査や本市での実現可能性、NPO等との協働のあり方などの検討を行う。	①NPO団体等と協働してのプレイパークの実施	①プレイパークの開催 10回	プレイパークの開催 【現状値】 3回 (平成27年度) 【目標】 3回	3回	前年度比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	10回	達成	・NPO団体等と協働してプレイパークの実施回数は、計画目標に対して、33%増と大幅増となっている。また、通常のプレイパークだけでなく、移動型のプレイパーク(プレイヤー)も事故なく実施することができた。このことから、「達成」とした。	・NPO団体や地域住民との協働や、青少年施設の利用も含め、外遊びが広がるような環境づくりを行う。 ・他都市においても「プレイパーク」は、子どもの居場所機能の一つとしてとても有効なメニューであるため、本市においてもさらなる研究が重要である。	青少年体験活動等活性化事業	60	子家・青少年課

事業の価値											予算		担当課			
■ 施策(9) 青少年の健全育成											予算・3次		※赤字が評価を記載した課			
【Plan】計画				【Do】実施					【Check】評価		【Action】改善		予算	3次プラン		
担当番号	事業番号	事業名	事業概要	令和元年度の事業計画	令和元年度の実績	活動指標					評価	5ヵ年 評価の理由 (分析)	達成 率の達成 や否や	課題や改善内容	予算 事務事業名	3次プラン 取り組み No.
						区分	27年度	28年度	29年度	30年度						
1	212	長野緑地「市民参加による農業体験教室」	計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催する。	①田植え、野菜の手入れ・収穫等の一般市民向けイベントの実施 (50回)	①田植え、野菜の手入れ・収穫等の一般市民向けイベントの実施 (41回)	イベント参加者数 【現状値】 2,447人 (H26年度) 【目標】 2,000人 (単年度)	2,000人	2,000人	2,000人	2,000人	2,000人	達成	令和元年度の実績は、目標回数及び目標参加者数を下回ったものの、5か年平均では目標を上回ったため「達成」と判断した。	市民と自然のふれあいの推進に向けて農業体験教室を継続実施する。	花と緑のまちづくり推進の一部	建設・公園管理課
2	213	少年サポートチーム推進事業	児童・生徒の問題行動は多様化・深刻化が進み、学校や家庭だけでは解決困難な生徒指導上の問題が増加しているため、学校・教育委員会・警察などの関係機関による相互の行動連携を強化し、問題行動の未然防止や早期の解決を図る。 ○少年サポートチーム(警察官や教員のO/B)による、問題行動を起こす児童生徒やその保護者、被害にあった児童・生徒への支援 ○薬物乱用防止教室等の非行防止に係る啓発活動の実施	①学校等の相談活動等 ②非行防止に係る啓発活動	①1235回 ②96回	非行防止教室等啓発活動 【現状値】 120回 (H26年度) 【目標】 115回	115回	115回	115回	115回	115回	概ね達成	・少年サポートチームが積極的に学校訪問、薬物乱用防止教室などを積極的に行ったこと含め、薬物乱用少年の検挙補導人員等、低い水準で推移しているため「概ね達成」とした。 ・問題行動の多様化・複雑化に対応するため、少年サポートチームと区担当指導主事の情報交換を密に行うとともに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー、関係機関(警察、子ども総合センター、区役所関係部署など)との連携推進を図り、早期に問題解決が図れるよう学校を支援していく。	「チーム学校」運営・推進事業(少年サポートチーム推進事業)	教育・指導第二課	
2	214	非行防止活動の推進(北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業)	非行発生率や再犯率が依然として高水準にある状況を踏まえ、ネットによる誘導中傷や有害サイト、危険ドラッグ等の課題にも対応した非行防止教室を実施するなど、児童・生徒の規範教育の充実を図る。 また、PTAなども連携し、保護者や地域住民に対して非行に関する現状や対策等を周知するなど、非行の未然防止や早期解決を図るための取り組みを進めて行く。	①非行防止教室の開催(初発型非行・薬物乱用防止・ネット被害防止) ②北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部 非行防止対策部会」における関係機関との情報共有・連携を図る。	①小倉北区・小倉南区の全中学校における非行防止教室の開催。 全24校 ②青少年の健全育成や非行少年の立ち直りを目的とした各種事業の実施。	非行防止教室実施校数 【現状値】 21校 (H26年度) 【目標】 20校 (単年度) ※非行防止教室は、主に中学校を対象に、毎年実施区を確定して、6ヵ年間で市内全中学校を一巡している。実施年度によって、対象区が変わるため、実施回数及び参加者数が変動することから、目標値は設定しない。	単年度目標なし	単年度目標なし	単年度目標なし	単年度目標なし	単年度目標なし	達成	・「非行防止教室」は3か年で市内すべての中学校で開催している。令和元年度は、小倉北区および小倉南区の中学校を対象に、計画的に実施することができた。 ・少年のはいかい防止に向けた取り組み「子どもの安全を守る『はいかい防止声かけネットワーク』」についても、計画どおり実施できていることから、「達成」とした。 ・「はいかい防止声かけネットワーク」の取り組みを強化し、より一層、市民に根ざした活動としていく。	北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部」運営事業	子家・青少年課 教育・指導第二課	
2	215	有害情報等から子どもを守る事業	インターネット上のサイトにおいて、児童・生徒によるいじめや非行行為等の不適切な書き込み等の実態を把握し、ネットトラブル等の早期解決と未然防止に関する指導を推進する。スマートフォンや携帯電話については、市PTA協議会などとも連携し、使用方法についての家庭でのルールづくりを推進する。 また、教職員の対応力向上のための研修や保護者等へリーフレットを作成・配布するなど啓発を行う。	①ネットトラブル等防止に関する研修 ②啓発リーフレット作成・配布 ③インターネット上のサイト等の監視	①教職員や保護者を対象に研修会を実施した。 ②保護者を対象にインターネットの安全利用や家庭でのルールづくりを進めるためのリーフレットを作成・配布した。 ③インターネット上のサイト等を定期的に巡回監視し、不適切な書き込み等について必要に応じて対応した。	ネット上の不適切な書き込み等発生件数の減少 【現状値】 1,748件 (H26年度) 【目標】 1,000件 (単年度)	1,031件	734件	1,028件	893件	262件	達成	・不適切な書き込みの数が大幅に減少した。検知したものを学校に伝え、学校が適切に対応した成果が表れていると考える。しかしながら、個人のSNSにまで入り込むことができていないのが現状である。今後も、ネットの危険性を啓発し、個々の判断力を高めていくことが求められると考える。 ・教員を対象とした研修を継続的に行うことができた。教員が正しい知識を持つことで、子どもに効果的な指導を施していることが、成果として表れていると考える。 ・以上のことから、「達成」と評価した。	監視ができていないSNS内でのトラブルの増加を踏まえ、利用実態の把握に努めることにも、児童生徒のネットリテラシーの向上を図る。また、安全にスマートフォンやインターネットを利用するために、PTAや関係部署等と一層の連携を図りながら、家庭でのルール作りやフィルタリングの設定など、適正な利用がなされるよう保護者に対して効果的な啓発を行っていく必要がある。	「チーム学校」運営・推進事業(ネットトラブル等防止及び啓発・研修事業)	教育・指導第二課

事業の価値											予算		担当課				
■ 施策(9) 青少年の健全育成											予算・3次		※次頁が評価を記載した課				
【Plan】計画				【Do】実施					【Check】評価		【Action】改善		予算事業名	3次予算 取り組み No.			
担当課 番号	事業名	事業概要	令和元年度の 事業計画	令和元年度の主な実績	活動指標	5ヵ年					評価	評価の理由 (分析)	課題や改善内容	予算事業名	3次予算 取り組み No.		
						区分	27年度	28年度	29年度	30年度							令和元年度
2	216	地域における青少年の見守り体制の充実・強化(北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業)	少年補導委員などによる補導・環境浄化活動や、北九州市青少年支援拠点「ロップイン・センター」の運営による青少年への声かけ夜間/パトロール、多世代農園事業などをはじめとした地域ぐるみで行われる青少年健全育成活動の、充実・強化に努める。	①市少年補導委員連絡協議会に係る会議を定期的に開催。 ②少年補導委員に対する研修会を開催。	①市少年補導委員連絡協議会開催回数 2回 ②研修会開催回数 1回	補導活動回数 3,882回 (H25年度) 前年度同水準	103%	99%	121%	100%	89%	達成	・少年補導委員役員会や研修会を開催し、少年補導委員の意欲や能力の向上を図ったことにより、委員間の情報共有や連携が促進された。 これにより、地域における青少年の見守り体制の強化が図られ、高水準で補助活動を実施できたことから「達成」と評価した。	・青少年を取り巻く環境が複雑化・深刻化する一方で、地域の繋がりが希薄になり、地域活動や青少年の非行防止に取組む方々の高齢化や減少が危惧される。 そのため、今後の事業の実施には、関係機関・団体等とより一層の連携を図り、事業の効率化を進めることが必要である。 ・「はいかい防止声かけネットワーク」の取り組みを強化し、より一層、市民に根ざした活動としていく。	「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」運営事業	79	子家・青少年課
2	217	青少年育成会・地域会議等推進事業(北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業)	地域ぐるみで青少年の健全育成・非行防止への取り組みを進めるため、青少年育成会や地域会議等の活動を支援する。	①各区・各団体への事務経費の支援により、地域会議の活動を支援する。	①各区の青少年育成会活動や地域会議の実施及び活動支援。 66団体	-	-	-	-	-	-	達成	・地域会議の開催経費・事務経費の支援などを実施することで、地域が主体となった青少年の健全育成・非行防止のための意識共有・情報共有が促進され、活動の活性化が図られた。 以上により、「達成」と評価した。	・区役所コミュニティ支援課と連携を図りながら、各地域における活動の実情等に合わせた、より効果的な支援を実施する。	「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」運営事業		子家・青少年課
2	218	出会い系サイトをはじめとする有害環境対策事業(北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業)	青少年が、コミュニティサイトなどをきっかけとする事件に巻き込まれるケースの増加を受け、メディア上の有害環境の危険性を伝える取り組みを進めて行く。	①非行防止教室の開催(初発型非行・薬物乱用防止・ネット被害防止) ②啓発リーフレットの作成・配布	①小倉北区・小倉南区の全中学校における非行防止教室の開催。 全24校 ②啓発リーフレットの作成・配布 65,000枚	リーフレット作成部数 57,000枚 (H26年度) 前年度同水準	110%	104%	100%	100%	100%	達成	・中学生を対象に、「コミュニティサイト」をはじめとしたインターネットによる危険性の啓発を行う「非行防止教室」を、計画どおり実施した。 ・小中学生の保護者を対象とした啓発リーフレットを作成・配布した。 ・春季・夏季・冬季の長期休暇期間中に、街頭ビジョンを活用したCMを放映した。 ・以上、計画どおり事業を行っているため「達成」と評価した。	・低年齢層へのスマートフォンの急速な普及やアプリの多様化による、インターネット世界の現状や危険性を、児童・生徒の保護者が十分に認識していないことが多い。 ・また、SNSやゲームなどによるネット依存の危険性も懸念されており、様々な問題がデジタル社会に潜在化する傾向にあるため、より一層の啓発活動が必要である。	「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」運営事業		子家・青少年課
2	219	消費者教育の推進	消費取引の知識に乏しい若年者が消費者トラブルに遭わないように、小・中学生、高校生、大学生、新入社員等に対して、最新の消費者被害の実態や、消費者として必要な知識を紹介する出前講座を実施することで消費者被害の未然防止を図る。	①若年者を対象とした出前講座	①若年者向け出前講座実施回数14回 受講者数1,099名	若年者向け出前講座受講者数 1,642名 (H25年度) 1,800名 (令和元年度)	900	1100	1300	1500	1800	遅れ	・受講者からは高い評価を受けているが、受講者数は目標を下回ったため「遅れ」とした。	【課題】 ・若年者を対象とした出前講座は、消費者被害の未然防止に有効な施策であり、今後より一層、「出前講座」の存在を周知していく必要がある。 【改善】 ・若年者を含むすべての消費者に対する消費者教育について、関係部局と連携して計画的に推進していく。	消費者行政推進事業		市文・消費生活センター
3	220	薬物乱用防止等啓発事業(北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業)	薬物乱用のない社会環境づくりを推進するため、小中学校等で実施される薬物乱用防止教室等のマニュアル作成や主に小学・中学・高校生を対象とした街頭啓発活動を行う。	①青少年に薬物の正しい知識を、生徒・児童187名が参加した。平成31年4月に小学5・6年生を対象とした薬物乱用防止教室を実施した。(受講者数:5・6年生児童132名及び教職員6名)	①街頭キャンペーンによる効果的な啓発活動の実施	-	-	-	-	-	-	達成	・街頭キャンペーンは豪雨により中止となった平成30年を除いて、計画期間中は毎年開催しており、多くの生徒・児童の参加を通して、市民への啓発を継続して行った。 ・小中学校での薬物乱用防止教室も、計画期間中は毎年開催しており、薬物に対する正しい理解の促進に貢献した。 以上により、評価を「達成」とした。	・危険ドラッグについては、市内の販売店舗が全て廃業に追い込まれるなど、状態に改善が見られる一方、若年者に大麻の乱用が広がっているとの報告もあることから、若年層への継続的な啓発が必要である。 ・引き続き関係機関と連携して、特に若年層への啓発を中心とした事業を進める。	・医薬務許認可業務 ・薬物乱用防止等啓発事業		保福・医薬業務課 保福・地域医療課

事業の価値											予算		担当課						
■ 施策(9) 青少年の健全育成											予算・3次		※赤字が評価を記載した課						
【Plan】計画				【Do】実施						【Check】評価		【Action】改善		予算	3次プラン	No.			
担当課	事業番号	事業名	事業概要	令和元年度の事業計画	令和元年度の主な実績	活動指標	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	評価	評価理由(分析)	次年度達成や遅れ	詳細や改善内容	予算	3次プラン	No.
4	224	不登校対策の充実	不登校は児童生徒に関わる最重要課題の一つであることから、事業の未然防止・早期解決や、社会性の育成を含む多様な支援を行うことで問題解決に取り組む。 ○小中連携の研修会や取組の強化 ○不登校児童生徒療育キャンプの実施 など	①中一ギャップ解消に向けた小中連携の取組 ②不登校児童生徒療育キャンプの実施 ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等による教育相談活動	①中一ギャップ解消に向けたアンケート(小中連携SUTEKIアンケート)により、児童生徒個々の補強すべきポイントを把握する取組を実施。 ②体験活動を重視した「不登校児童生徒療育キャンプ」を実施 ③スクールソーシャルワーカーによる学校訪問・家庭訪問・関係機関訪問等: 21,735回 小学校でのスクールカウンセラー相談件数: 26,877件	不登校児童生徒の復帰好転率(小学校) 【現状値】 63.7% 【目標】 61.5% 【達成率】 96.5% 【達成率】 68.3% 【達成率】 50.7% 【達成率】 51.9% 【達成率】 102.4% 【達成率】 72.1%	63.7%	71.5%	80.3%	90.0%	66.9%	10月に全国一斉公表予定	概ね達成	・小中連携SUTEKIアンケート北九州版を活用し、「個の補強ポイント」に対する手立ての作成や「長期欠席の未然防止と初期対応」の手立てをインフラナビに掲載するとともに、読み取りソフトを市内全小中学校に導入し、アンケート分析等の負担軽減を図った。また、モデル校区による「長期欠席の未然防止と初期対応」の検証を行うなど、好ましい人間関係を育み、不登校の未然防止の取組を着実に進めることができた。 ・中学校の復帰好転率は向上しているが、小学校に関しては低下している。原因として、児童生徒のきめ細かな実態把握に課題があると考えられる。 ・以上のことから「概ね達成」と評価した。	・不登校を含む長期欠席の状態となっている児童生徒に対して、その原因を的確に把握し、個別の事案ごとに、きめ細かな対応を行っていく必要がある。 ・生徒指導主任会や長期欠席対策会議等で、児童生徒の学校や家庭、支援室、フリースクール等での些細な好転も把握するように徹底する必要がある。 ・教育相談・連携ラインの指導主事の学校訪問にあたって、長期欠席者の状況や学校での取組状況を確認するとともに、居心地のよい学校・学級づくりを推進し、長期欠席の未然防止を図っていく。	不登校対策の充実 ・スクールカウンセラーの配置 ・スクールカウンセラーの充実 ・スクールカウンセラー活用による問題行動等防止事業 ・少年サポートチーム推進事業 ・スクールソーシャルワーカー活用事業の充実	85	教育・指導第二課	
4	225	スクールカウンセラーの配置	不登校やいじめ等の問題を抱える児童生徒および保護者への対応には、小中学校等におけるカウンセリング等の機能の充実を図る必要があることから、教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の「心の専門家」をスクールカウンセラーとして、全ての中学校区に配置し、小学校に派遣するなどして、生徒指導上の諸問題の解決を図る。	①全中学校(62校)、全特別支援学校(8校)に配置し、小学校への派遣を行う。	①小学校でのスクールカウンセラーの相談件数: 26,877件	小学校でのスクールカウンセラー相談件数 【現状値】 11,355件 【目標】 14,061件 【達成率】 80.0%	11,355件	14,061件	14,345件	12,508件	25,262件	26,877件	達成	・全小中学校及び特別支援学校に対しスクールカウンセラー(SC)を配置、もしくは派遣できている。相談環境を整えることで、児童生徒が心の問題を抱えずに済むよう活動している。 ・小学校5年生全員面接を実施したことで、小学校の相談件数の増加につながっている。 ・以上のことから「達成」と評価した。	・悩みを抱えたまま相談できない児童への対応を進めるため、小学校5年生全員面接を継続することで、スクールカウンセラーに相談しやすい環境を整備する。 ・自らストレスに対処できる能力を育てるため、小学校6年生・中学校2年生の全児童生徒を対象に自殺予防学習を実施する。 ・スクールカウンセラーの専門性を生かし、教職員のカウンセリング等の能力向上を図っていく。	・スクールカウンセラーの配置 ・スクールカウンセラー活用による問題行動等防止事業 ・スクールカウンセラーの拡充		教育・指導第二課・特別支援教育課	
4	226	スクールソーシャルワーカー活用事業	不登校、いじめ、児童虐待など児童・生徒に係る問題行動解消のため、社会福祉士や精神保健福祉士の資格を有し、専門的な知識を有するスクールソーシャルワーカーを配置して、児童・生徒への直接的な働きかけとともに家庭環境への働きかけなど、福祉的視点から支援活動を行う。	①スクールソーシャルワーカーの増員による体制の充実 ②福祉的視点による積極的な支援活動の実施	①スクールソーシャルワーカー内にスクールソーシャルワーカーリーダーの配置(2人) ②学校訪問、家庭訪問、関係機関訪問等の回数: 21,735回	スクールソーシャルワーカー配置数 【現状値】 7人 【目標】 10人 【達成率】 80%	8	8	9	12人	12人	15	達成	・スクールソーシャルワーカー15名のうち、2名をスクールソーシャルワーカーリーダーとして採用し、SSW全体の資質向上、連携、業務のコーディネート等を行い、組織的な対応ができています。 ・支援対象者数や学校・関係機関等への訪問回数など活動状況を考慮しつつ、更なる体制充実を検討し、支援を必要とする児童生徒に対して、より一層の働きかけをおこなっていきができています。 ・以上のことから「達成」とした。	・要請を受けてから派遣する、従来の「派遣型」にとどまらず、問題の早期発見・早期対応を行うため、一部の人員を学校に配置する「配置型」の効果を検証する。 ・新人SSWの教育体制及びSSW全体の資質向上・連携体制の構築のため、実践活動事例集等を活用して効果的に研修を推進する。	スクールソーシャルワーカー活用事業	87	教育・指導第二課	
5	227	デートDV予防啓発事業(男女共同参画基本計画推進事業)	若年層(高校生・大学生等)において、顕在化しているデートDVは、将来、深刻な男女間の暴力の問題につながる可能性があることから、若年層を対象とした出前講演等予防啓発を行う。	①デートDV予防教室の実施	①実施21回、参加者3,340人	デートDV予防教室参加者数 【現状値】 2,798人 【目標】 3,340人 【達成率】 115%	25年度より増加 3,227人	25年度より増加 4,421人	25年度より増加 2,672人	25年度より増加 3,204人	25年度より増加 3,340人	119%	概ね達成	・年度によるばらつきがあるものの、5か年中4年間は目標達成しており、概ね達成できたと判断するもの。 ・引き続き関係機関との連携を図りながらデートDV予防教室を開催する。 ・教職員等関係者や若年層に対し、積極的な広報啓発に取組む。	男女共同参画基本計画推進事業の一部		総務・男女共同参画推進課		